

令和6年7月1日

介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する検討会

構成員各位

全国福祉高等学校長会

理事長 高橋 秀親

介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する意見書

本会では、介護福祉士国家試験パート合格の導入について、加盟校を対象としたアンケートを実施しました。アンケート結果をもとに次の5点を意見として挙げさせていただきます。

1. パート合格導入の明確な根拠

介護福祉士国家試験における受験のしやすい仕組みづくりを検討する中で、パート合格導入を有力な手立てとした明白な根拠について示していただきたい。

介護福祉士国家試験については、受験者の大半を占める「実務経験ルート」においても既に8割を超える合格率である。それに対し、保育士試験については3割弱の合格率であり、2つの資格の合格率に大きな差がある。保育士試験でパート合格が用いられるのにはこのような合格率の低さがあるからであると推察される。

また、医師・看護師や理学療法士、作業療法士などの国家資格と比較した場合、確かに介護福祉士の合格率は1割ほど低くなっている。これについては、前述の資格については養成施設ルートであることから、高い合格率であることが考えられ、介護福祉士においても養成ルート（留学生を除く）については同様の合格率である。

上記のことから、パート合格は「受験しやすい仕組み」ではなく「合格しやすい仕組み」であると受け取れる。また、さらに言えば「外国人・留学生」に対しての手立てのように感じられる。

2. パート合格導入による受験者の増加についての明確な根拠

パート合格導入により、受験しやすくなり「受験者が増えた」ということをどのように測り、この制度を評価していくのか、時期やその方法なども含め導入前に検討および提示していただきたい。

3. 介護福祉士資格の社会的評価・価値の保証

すでに検討会についての報道により、ネット上ではネガティブな意見等が散見される。資格そのものの価値は変わらずとも、社会的価値が低下することが無いよう十分な措置を検討していただきたい。

4. 介護福祉士の知識・技術等の質の保証

パート合格を導入することにより、二回目の受験以降、総合的に学ぶ機会が減少することが考えられる。特に、試験は年一回の実施となり、試験から試験までの期間が長くなる。過去の法改正でもあったように、「介護ニーズの多様化・高度化」し、日々変化する介護現場において、介護福祉士の資質をどのように保証するのかを検討会にて示していただきたい。

5. 平成19年社会福祉士及び介護福祉士法改正（一元化）について

平成19年に介護福祉士国家試験について改正が行われ、「介護ニーズの多様化・高度化の進展に対応できる資質を担保し、社会的な信頼と評価を高める」という観点から福祉系高校においては養成校同様の履修時間数が求められ、担当する教員資格にも新たな条件が加わった。一方で、養成校においては国家試験の受験を義務化するとしたなかで、これまで延べ期間として15年間延長してきている。このような背景の中、今回のパート合格を導入することについてどのように検討会では考えているのか示していただきたい。

おわりに

これからの未来を担う子どもや若い世代の人たちが、介護福祉士という職業に夢や憧れを持ち、「なりたい」「やりたい」と思うような魅力ある資格となって欲しいと願っています。そのためにも、この検討会においても介護福祉士の価値や魅力を高めることができるよう、十分にご検討いただけるよう改めてお願い申し上げます。

「介護福祉士国家試験パート 合格の導入に関する検討会」 に対する意見

全国福祉高等学校長会

理事長 高橋 秀親

(学校法人東奥学園 理事長・学園長 東奥学園高等学校)



はじめに

本会では、パート合格の導入について加盟校を対象としたアンケートを実施しました。アンケート結果をもとに次の5点を意見として挙げさせていただきます。

本日の意見内容

- 1 パート合格導入の明確な根拠
- 2 パート合格導入による受験者の増加について
- 3 介護福祉士資格の社会的評価・価値の保証
- 4 介護福祉士の知識・技術等の質の保証
- 5 平成19年改正（一元化）について
- 6 おわりに

※アンケート結果の詳細は、「7 その他 参考資料」を参照

パート合格導入そのものの理由等の明確化

- 介護福祉士受験資格～①養成施設ルート、②実務経験ルート、
③福祉系高校ルート、④EPAルート

→受験者の大半を占める「実務経験ルート」においても既に8割を超える合格率

- 保育士受験資格※ ～①高校卒業後に指定養成校以外(大学・短大・専門学校)
②高校卒業後に児童福祉施設の実務経験が2年以上

過去5年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
介護福祉士 (実務経験ルート)	67.7%	70.4%	72.7%	84.9%	83.8%
保育士	23.7%	24.2%	19.9%	29.9%	R6.7.1現在未公表

- 国家試験の受験対象者が異なり、介護福祉士と保育士の国家試験を比較することは適当でない。

※保育士資格の取得方法には、保育士試験を受験する方法と、指定保育士養成施設に通う方法の2通りがある。指定保育士養成施設は卒業と同時に保育士資格を取得できる。

パート合格導入そのものの理由等の明確化

- 医師受験資格～大学医学部の養成施設
- 看護師受験資格～大学、短大、専門学校などの養成施設
- 理学療法士受験資格～大学、短大、専門学校などの養成施設

→ 養成施設ルートのみを対象とする国家試験である。

- 介護福祉士におけるパート合格導入は
 - ・ 「受験しやすい仕組み」ではなく「合格しやすい仕組み」へ
 - ・ 「外国人・留学生」に対しての手立てではないか。

過去5年 合格率		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
介護福祉士	介護福祉士(全体)	69.9%	71.0%	72.3%	84.3%	82.8%
	養成施設(留学生除く)	—	88.7%	88.5%	94.8%	93.5%
	福祉系高校	77.9%	81.5%	81.3%	92.6%	91.4%
看護師国家試験		94.7%	95.4%	96.5%	95.5%	93.2%

出典：厚生労働省 国家試験発表資料による

※介護福祉士の合格率の詳細は、「7 その他 参考資料」を参照

パート合格導入そのものの理由等の明確化

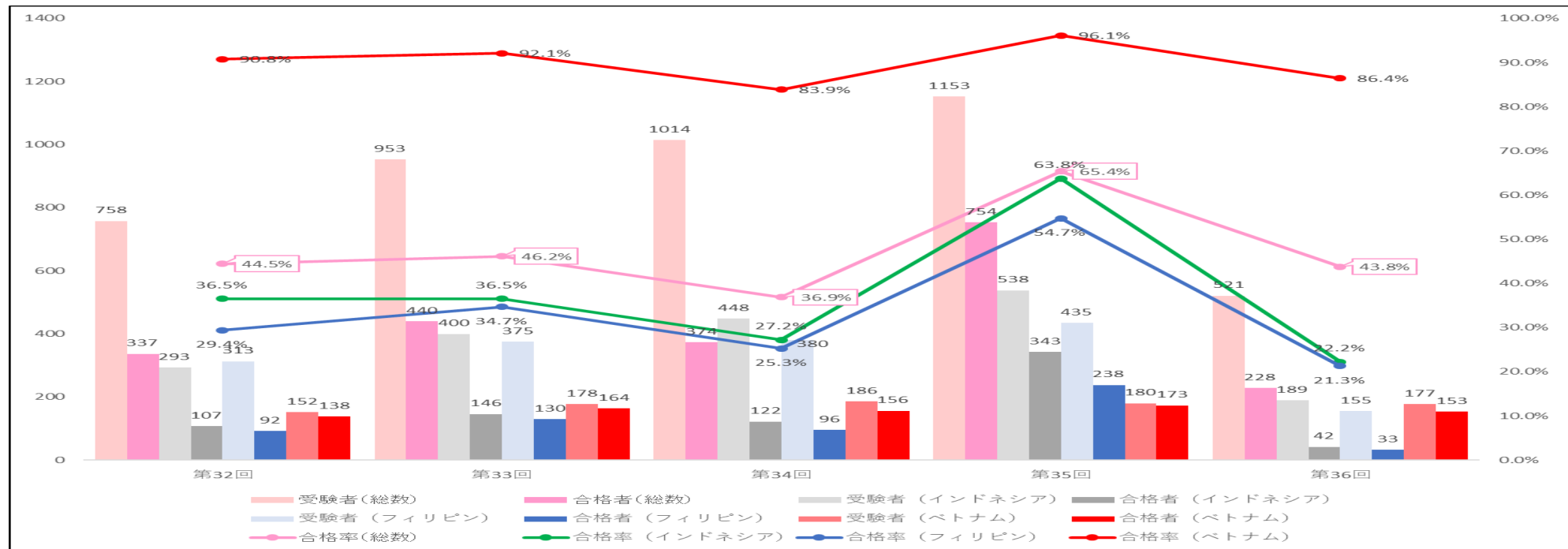
●外国人の国家試験合格率は低い傾向

限られた受験機会の中で就労と試験勉強の両立は大きな課題

→EPA介護福祉士候補者

ベトナム(日本語能力N3以上)の合格率 89.8%(第32回~第36回平均)

日本語の理解力が大きく影響しているのではないか。



出典:厚生労働省 第36回介護福祉士国家試験におけるEPA介護福祉士候補者の試験結果にもとづく

※合格率の詳細は、「7 その他 参考資料」を参照

パート合格導入による受験者の増加について

●パート合格の導入に関する評価

パート合格の導入により受験しやすくなることで、受験者が増えることを期待するが、制度導入の効果をどのように評価していくのか。

- ・時期、方法
- ・合格基準の整合性
- ・社会的評価・価値
- ・受験ルートへの影響
- ・学習成果への効果 など

●一時的には受験者数や合格者数を増加させることができると推測できる。

→長期的には資格の価値を低下させ、結果的に受験者数の増加につながらない可能性はないか。

介護福祉士資格の社会的評価・価値の保証

- **介護福祉士の社会的評価や価値が低下することを危惧する意見が多い。**

【本会 アンケート回答より(一部抜粋)】

- ・人材確保の視点から考えると、有資格者の人数よりも、働きやすい環境を作ることや待遇面、地位の向上などが課題である。(福祉系高校)
- ・プライドを持って輝いて働いている「介護福祉士」のみなさんの国家資格を軽い印象の資格にしてほしくない。(福祉系高校)
- ・国家試験の価値が失われる。「介護福祉士」がいつまでも名称独占のままになってしまう。(福祉系高校)
- ・介護福祉士資格の社会的地位を向上させるには分割での合格を認めない方がよい。(福祉系高校)
- ・介護分野の唯一の国家資格としての資格価値の低下につながる。(福祉系高校)
- ・介護職員初任者研修との線引きとして国家試験の威厳を保つことも大切だと思う。(福祉系高校)
- ・介護福祉士の質を向上させるために資格制度として統一したのではないのか。介護福祉士の社会的地位を上げるには、パート合格などの簡単に資格が取れるような印象になるのはデメリットである。(福祉系高校)

- **SNSやネット上でもネガティブな発言や投稿が見られる。**

介護福祉士の知識・技術等の質の保証

- **パート合格の導入により、介護福祉士としての質が低下することを危惧**
→「介護ニーズの多様化・高度化」し、日々変化する介護現場において、**介護福祉士の資質を保証できるのか。**

【本会 アンケート回答より(一部抜粋)】

- ・これまで質の向上を目指して、カリキュラムの改訂や履修要件などを厳しく改善してきたはずであるが、パート合格を導入することは、逆行している。(福祉系高校)
- ・介護福祉の専門職に求められる総合的な判断をする力を育成できない。(福祉系高校)
- ・介護福祉士として、総合的な知識をもって介護に携わるべきと考えるので、部分的な合格というのは相応しくないと考える。(福祉系高校)
- ・介護福祉士の国家試験は、どの分野からもバランスよく得点できる状況があるから、質を担保できると考える。(介護職員初任者研修実施校)
- ・このパート合格の仕組みがこれまで厚生労働省が声高にいう「質の確保」にも影響を与えるのではないか。介護人材不足は国試のあり方だけではない。(福祉系高校)
- ・国家試験の難易度が優しくなっているため、パート合格にした場合、知識の担保ができないのではないか。(福祉系高校)

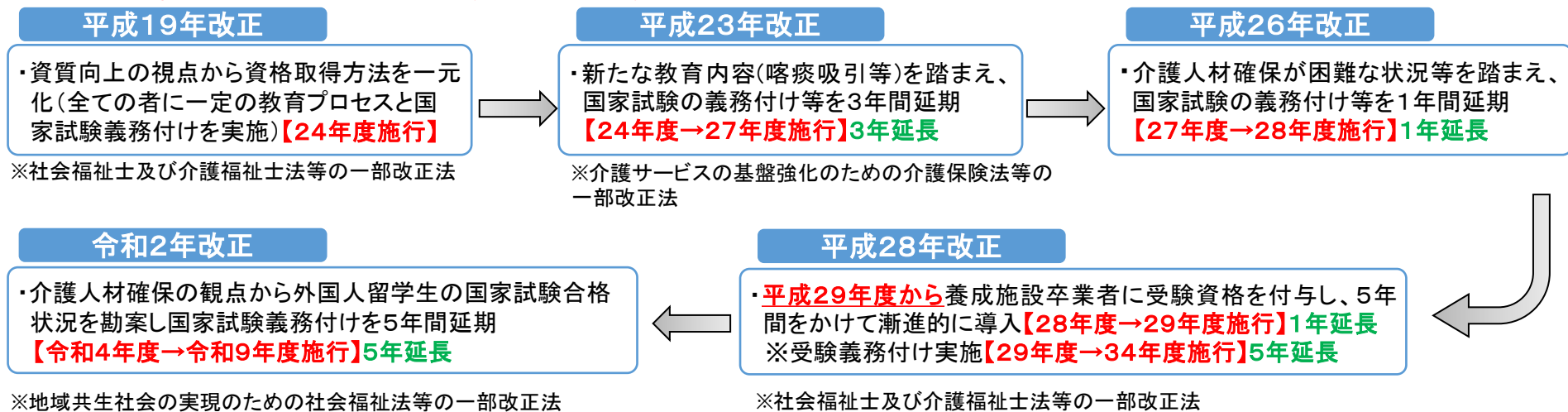
資格制度として一元化

平成19年の社会福祉士及び介護福祉士法の一部改正により介護福祉士の資格取得方法が見直された。

「介護ニーズの多様化・高度化の進展に対応できる資質を担保し、社会的な信頼と評価を高める」という観点

●福祉系高校においては養成施設同様の履修時間数が求められ、担当する教員資格にも新たな条件が加わった。

●一方で、養成施設においては国家試験の受験を義務化するとしたなかで、これまで延べ期間として15年間延長してきている。



おわりに ～養成する学校や学ぶ生徒への支援の充実・若い世代が夢や憧れを持てる職業へ～



十年後のわたしへ

私のしょうらいの夢は老人ホームに
いるお年をりを老人をたすける仕事を
したいと思いました。

なぜ老人ホームに入ろうと思った
理由は、私のおじいちゃんおばあちゃんが
たいへんなときたすけたという夢をもちたいと
かんじたからです。なので、もっと勉強
をして、ばな人になり老人ホームのお年をりを
たすけたいです。

自分はいままで老人ホームの夢をもちたい。
だから二十歳になっても老人ホームの
仕事がんばれ。いっぱいしてもあ
らめずに自分の夢をがんばれ。
最後まであきらめずにがんばれ

はきっといい仕事になれるかながんばれ

小学校 4年

名前



これからの未来を担う子どもや若い世代の人たちが、介護福祉士という職業に夢や憧れを持ち、「なりたい」「やりたい」と思えるような魅力的な資格となることを願っています。

そのためにも、この検討会においても介護福祉士の価値や魅力を高めることができるよう、十分にご検討いただけるよう改めてお願い申し上げます。



(1)加盟校アンケート調査

- 名称：介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する検討会について アンケート
- 対象：全国高等学校長会加盟校（全数調査）
- 配布方法：メールにて案内
- 回収方法：ウェブフォームから回答者が選択し回答
- 調査期間：令和6年5月27日（月）～令和6年6月24日（月）
- 調査における留意点

学校で福祉を教える先生方の意見をまとめたもので、学校としての意見を提出

- 回答数 加盟校 198校中94校 回答率47.4%

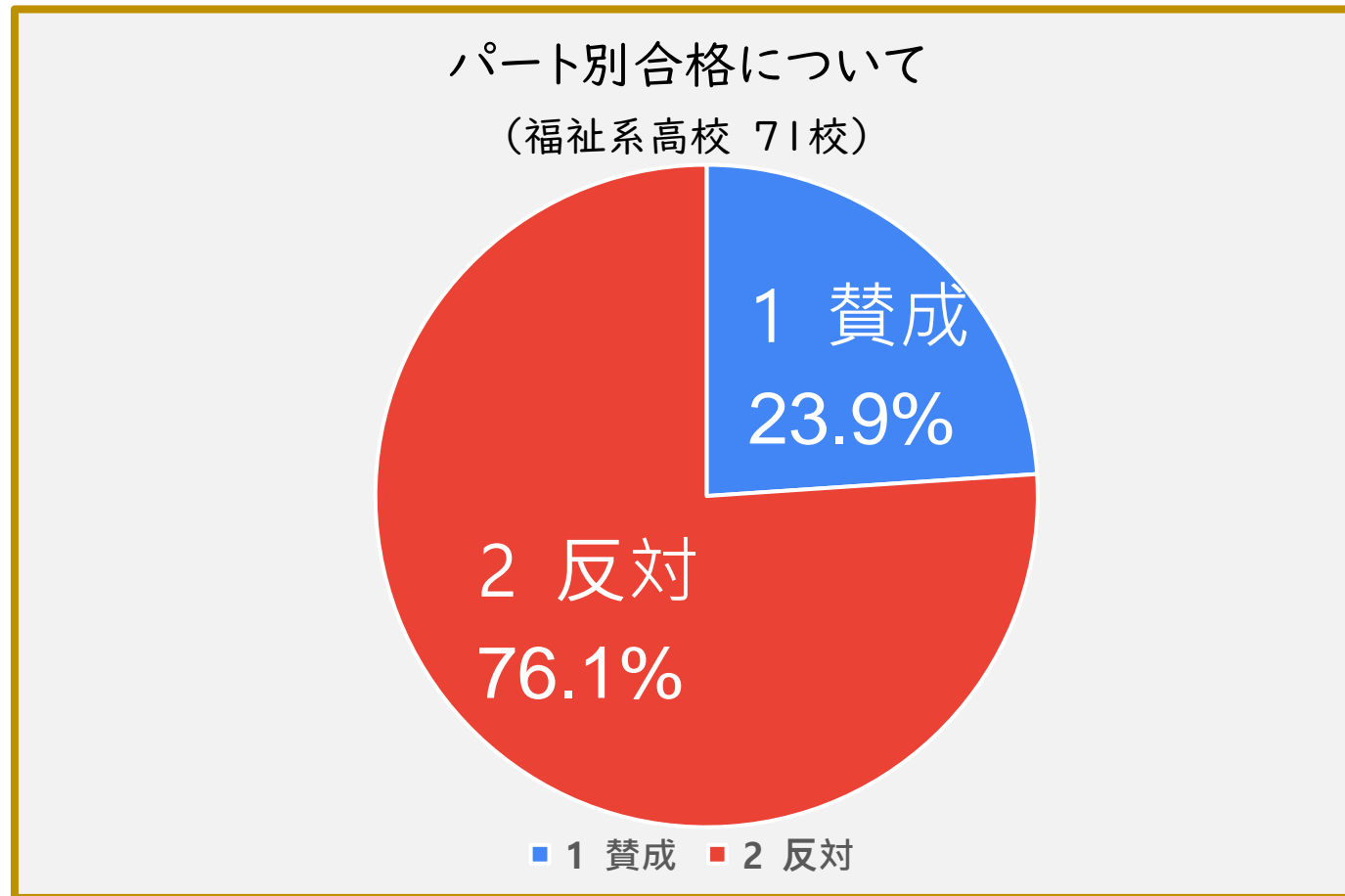
（うち福祉系高校 109校中71校 回答率65.1%）

(2)加盟校アンケート調査目的

このアンケートは、介護福祉士国家試験のパート合格制度の導入に関する意見を収集することを目的として実施した。全国福祉高等学校長会に加盟している学校から、パート合格制度に対する賛否や、試験の分割方法、有効期限に関する具体的な意見を集めることで、制度導入のメリットやデメリット、その影響を明確化にし、多角的に検討するために行った。

(3)加盟校アンケート調査結果

- ①パート合格の導入について質問します。
賛成ですか。反対ですか。



(3) 加盟校アンケート調査結果

② パート別合格 反対の理由

1 資格の質の低下

- ・分割して合格することで、介護福祉士としての包括的な知識やスキルが確保できない恐れがある。
- ・資格全体の価値が低下し、社会的評価が下がると懸念される。

2 教育の質の低下

- ・学生が全科目を網羅する動機付けが低下し、不得意な分野を後回しにする可能性がある。
- ・福祉系の教育機関での学びの意義が薄れることが懸念される。

3 現行制度の維持の適切性

- ・既に高い合格率が保たれており、パート合格の必要性が低い。
- ・現行の試験方式では質を担保できているとの見解。

4 専門性と総合的判断力の確保

- ・パート合格では介護職に求められる総合的な判断力が育成しにくくなる。
- ・専門職として必要な広範な知識とスキルが定着しない恐れがある。

5 合格者の増加に伴う懸念

- ・合格者が増えることによる「簡単に取れる資格」という認識が生まれる恐れがある。
- ・資格が取りやすくなることで、介護福祉士の待遇改善や職場環境の向上が進まなくなる可能性がある。

6 事務手続きの煩雑化

- ・合格基準の管理や試験運営の負担が増えるため、受験料の増加が懸念される。

③ 考えられるデメリットについて

1 専門性の低下

- ・パート合格により、必要な広範な知識やスキルの習得が難しくなるため、専門性が低下する可能性がある。
- ・十分な知識や技術がないまま現場に出ることが、現場の負担を増やす可能性がある。

2 社会的評価の低下

- ・パート合格が導入されると、資格が「簡単に取れる資格」と認識され、介護福祉士としての社会的地位や資格の価値が低下する恐れがある。

3 試験運営の複雑化・コストの増加

- ・パート合格を管理することで、試験の手続きが複雑化し、運営コストが増加する可能性がある。

4 モチベーションの低下

- ・パート合格が容易になることで、受験生の勉強に対するモチベーションが低下する可能性がある。

5 試験の公平性

- ・パートごとに難易度に偏りが生じる可能性があり、合格率にばらつきが生じる。

(4)加盟校アンケート調査結果・分析

全国福祉高等学校長会として

2040年(令和22年)度末までに新たに約69万人の介護人材が必要とされ、認知症高齢者や高齢単身世帯の増加に伴う介護ニーズの複雑化・多様化に対応することが求められている。この中で、高い専門性を持つ介護人材の確保・育成が喫緊の課題となっている。そのため、介護人材の基盤を拡大する観点から、介護福祉士を目指す方々の重要性を踏まえて、介護福祉士資格の取得を目指す受験者がより容易に受験できる仕組みの検討が始まった。

アンケート結果から、パート合格制度が実際に「高い専門性を有する介護人材の確保・育成」に寄与するかについては疑問が残る結果となった。

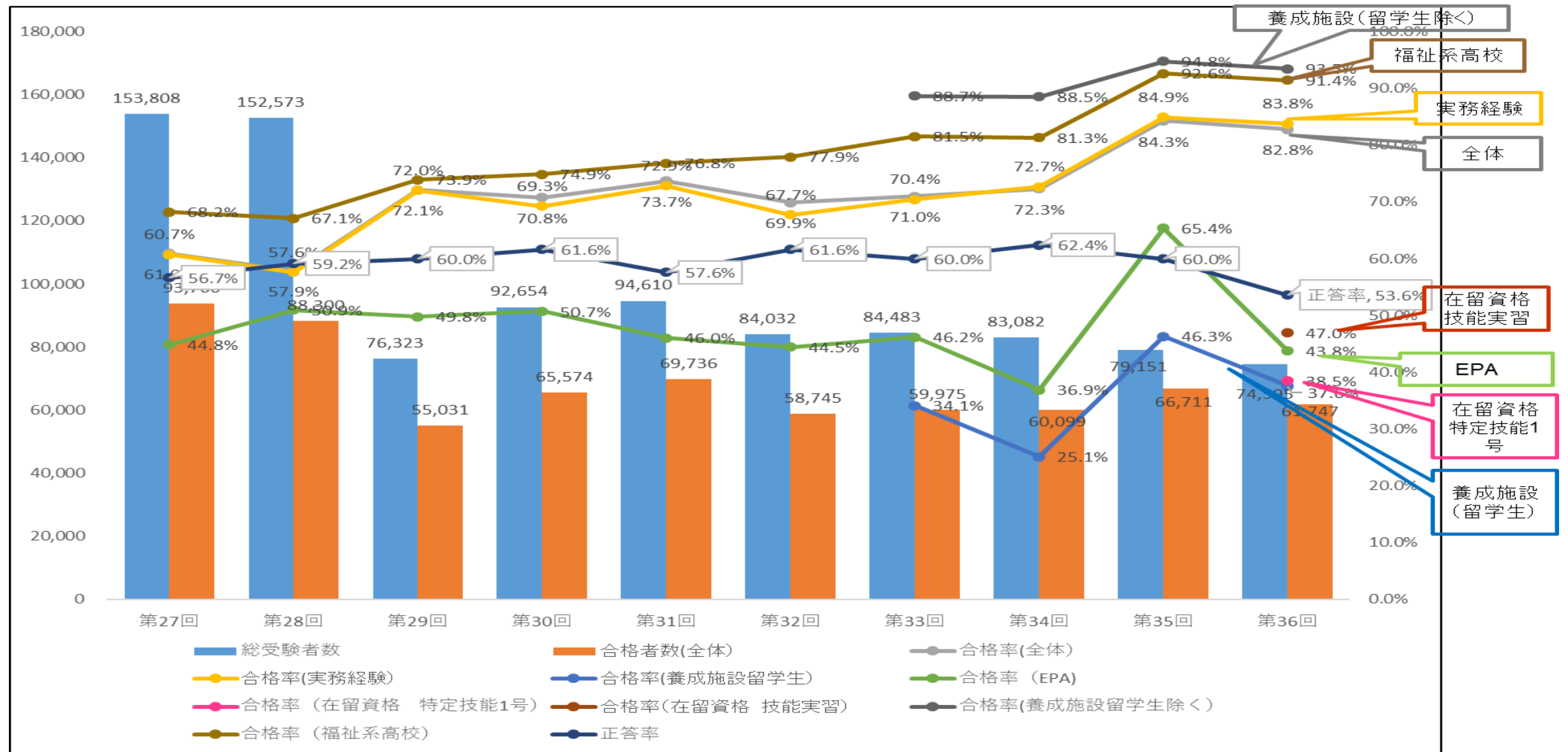
パート合格は、一時的には受験者数や合格者数を増加させることができると推測できるが、長期的には資格の価値を低下させ、結果的に受験者数の増加につながらない可能性がある。

まずは、資格制度の一元化及び給与や労働条件の改善による社会的地位の向上について推進することで、介護福祉士を目指す者が増え、必要とされる介護人材の確保がより現実的な目標となると考える。

福祉系高校は、高校生の段階において介護ニーズの複雑化および多様化に対応する高度な専門性を持つ人材を育成するという重要な教育機関としての役割を担っている。また、これからの未来を担う子どもや若い世代が介護福祉士という職業に夢や憧れを持ち、「なりたい」「やりたい」と思うような魅力ある資格になることを願っている。

その他：参考資料

(5)第27回～第36回介護福祉士国家試験（総受験者数・総合格者数・各ルート等合格率・正答率の推移）



出典：厚生労働省 介護福祉士国家試験における第27回から第36回発表資料にもとづく

その他：参考資料

(6) EPA介護福祉士候補者（第32回～第36回）受験者・合格者・合格率

		日本語能力	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回
EPA (総数)	受験者(総数)		758	953	1014	1153	521
	合格者(総数)		337	440	374	754	228
	合格率(総数)		44.5%	46.2%	36.9%	65.4%	43.8%
インドネシア	受験者(インドネシア)	●訪日前日本語研修(6か月)※1, ※2 ●日本語能力試験 H26～R3年度 N5程度以上 R4年度～ N4程度以上(基本的な日本語を理解することができる) ●訪日後日本語等研修(6か月)【特定活動】※1	293	400	448	538	189
	合格者(インドネシア)		107	146	122	343	42
	合格率(インドネシア)		36.5%	36.5%	27.2%	63.8%	22.2%
フィリピン	受験者(フィリピン)	●訪日前日本語研修(6か月)※1, ※2 ●日本語能力試験 H28年度～N5程度以上(基本的な日本語をある程度理解することができる) ●訪日後日本語等研修(6か月)【特定活動】※1	313	375	380	435	155
	合格者(フィリピン)		92	130	96	238	33
	合格率(フィリピン)		29.4%	34.7%	25.3%	54.7%	21.3%
ベトナム	受験者(ベトナム)	●訪日前日本語研修(12か月)※1 ●日本語能力試験 N3以上のみ(日常場面で使われる日本語をある程度理解できる) ●訪日後日本語等研修(約2.5か月)【特定活動】	152	178	186	180	177
	合格者(ベトナム)		138	164	156	173	153
	合格率(ベトナム)		90.8%	92.1%	83.9%	96.1%	86.4%

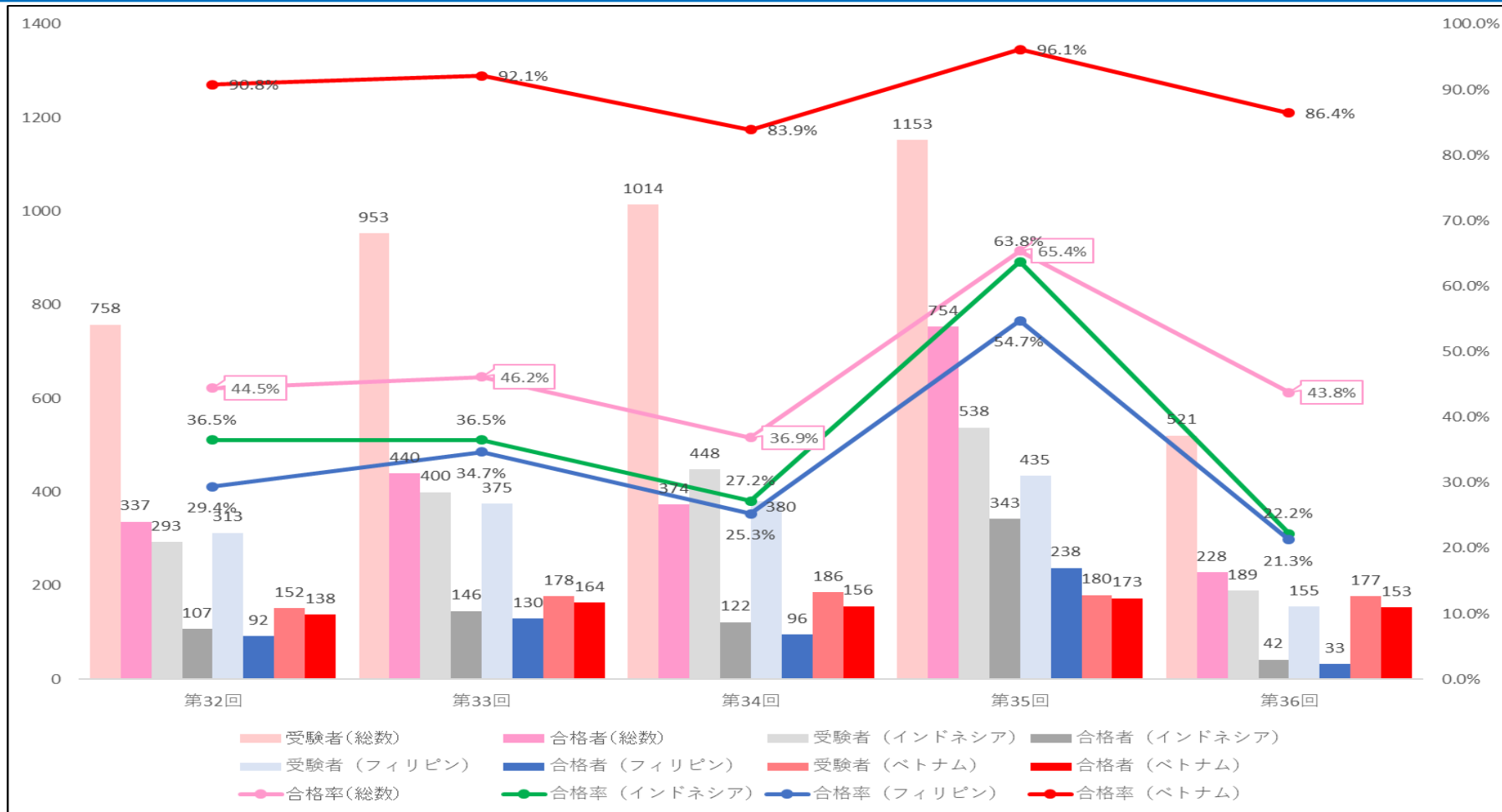
日本語能力試験N2以上の候補者は※1の日本語研修を免除。

また、一定期間内に日本語能力試験N3若しくはN4を取得した候補者は※2の日本語研修を免除。

(参考)全受験者の合格率	69.9%	71.0%	72.3%	84.3%	82.8%
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出典：厚生労働省 第36回介護福祉士国家試験におけるEPA介護福祉士候補者の試験結果(全国福祉高等学校長会で一部改編)

(6) EPA介護福祉士候補者（第32回～第36回）受験者・合格者・合格率



出典：厚生労働省 第36回介護福祉士国家試験におけるEPA介護福祉士候補者の試験結果にもとづく

EPA介護福祉候補者の国別合格率の結果を見ると、国家試験の問題の難易度よりも、日本語の理解力が影響しているのではないかと考えられる。

パート合格導入と養成校の教育との関係（効果や影響など）について

介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する検討会（第1回）配付資料

資料3 昨年度検討会の概要と主な論点

（1）受験しやすい仕組みの考え方

受験のための学習への取り組み易さ、受験者の利便性の両側面から受験しやすい仕組みの導入を検討することが必要。受験しやすい仕組みの導入によって、介護福祉士の知識及び技能が低下するものではない。

（2）受験しやすい仕組みとしてのパート合格

パート合格を導入することにより、例えば、2回目以降の受験時に不合格パートの学習に注力できるようになるなど、一人ひとりの状況に応じた学習を後押しすることが可能となり、より受験しやすい仕組みとなることが考えられる。

影響について



- 福祉系高校では、学校の充実した支援体制のもとで生徒が学習に集中できる環境が整えられている。
 - パート合格制度の導入により、生徒（および教員）が卒業時に1回で合格するという意欲が低下。
 - 特に学習が苦手な生徒の全科目一括合格に対する意欲を削ぎ、教師においても個別的な学習として部分的な知識の伝達に偏ることになり、その生徒の学習効果や教育の質に負の影響を与える。
- 多職種連携の重要性が高まる中、パート合格導入により介護福祉士の取得が容易になると認識される。
 - 社会的価値が損なわれる恐れがある。
 - 入学当初は介護福祉士を目指していた生徒も、実習先で出会う他の医療系専門職に魅力を感じ、上級学校への進路変更を選ぶ生徒が増える可能性がある。

パート合格導入と養成校の教育との関係（効果や影響など）について

介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する検討会（第1回）配付資料
資料3 昨年度検討会の概要と主な論点

養成校について

教育の統合と実践力

- 各科目と領域は相互に関連しており、トータルでの実践力が介護の質を決定
- 部分的な学びではなく、総合的な実践力の育成が重要

部分ごとの学びを足し算で合格させるパート合格では総合して実践する力を見ることができないと考える。各科目での学びを統合・総合した上で、環境や場面の中でその人により適切な介護を提供することが求められている。